

サンゴ礁海域における施工技術の検討について

港湾計画課 ◎前幸地 紀和

○土田 真也

1. 目的

沖縄総合事務局開発建設部では、サンゴ礁と共生する港湾整備を推進するために、1990年代から那覇港、平良港、石垣港においてサンゴの着生・成育を促進するための技術開発に取り組んでいる。

具体的には、防波堤等の港湾構造物にサンゴ群集の成育場を新たに創出する機能がある点に着目して、サンゴ群体の移植・移築技術及びサンゴ着生促進技術についての技術開発を行なっており、サンゴ礁に配慮した港湾整備を推進するうえで、きわめて実用的な技術の一つであることから、本技術の汎用化に向けた検討を行なった。

2. 内容

1. サンゴ群体の移植・移築技術については、サンゴの保全・再生技術の一つであり、港湾整備等事業の影響を受けるサンゴ群体を保全(避難)する技術について、港湾環境の開発・利用と自然環境の保全を両立することができる実用的な手法の検討を行なった。
2. サンゴ着生促進技術については、より効果的にサンゴ群集を加入・着生させることを期待して、サンゴ礁と共生する港湾整備を推進するまでの実用的な技術の検討を行なった。

3. 結論

サンゴの保全・再生技術の一つであるサンゴ群体の移植・移築技術について、サンゴと共生する港湾整備を推進するための指針、及び、構造物本来の機能を損なわず、安価でかつ効果的にサンゴ群集の加入・着生を促進するための指針を取りまとめた。

4. 今後の問題点

本指針を使用して本技術を構造物に適用する際には、周辺環境の地域性、環境特性、施工性、済性などを勘案し、創意工夫を加えていくことが必須である。なお、本指針には必要に応じて今後もモニタリング調査結果から得られた改良点や最新の知見を盛り込んで、さらに内容を充実させて行くことが必要である。